

ロボコンの悲喜こもごもまで味わえる ロボット対戦アクションゲーム

Robot Wars ~ Arenas of Destruction ~

ロボットウォーズ

アリーナズ・オブ・ディストラクション

標準価格 4,300円(税別)

動作環境

OS : Windows 98・Me・XP

CPU : Pentium 350MHz以上、もしくはAMD K-6以上

メモリ : 64MB以上

CD-ROM : 8倍速以上

サウンド : 16ビットサウンドカード

ハードディスク : 500MB以上の空き容量

グラフィック : DirectX8.0A対応のVram8MB以上

英語オリジナル版・日本語マニュアル付き

開発・発売・販売 ナツメ株式会社

<http://www.natsume-game.com/>



「ロボマガ」記者・城井田勝仁

ショーアップされたロボットバトル

ロボコンは日本がもっとも盛んだが、海外にも同様のものはある。その1つで、テレビ番組としてショーアップされたものが、アメリカを始めとして世界30カ国で放映されている「ロボットウォーズ」である。さまざまな武器を装備したロボット同士がぶつかり合い、激しい戦いが繰り広げられる「ロボットウォーズ」は、見る者を熱狂させてやまない。

「ロボットウォーズ アリーナズ・オブ・ディストラクション」は、その「ロボットウォーズ」を基にしたパソコンゲームである。ロボット同士の激しいぶつかり合いはもとより、歓声や実況放送までリアルに再現されており、その世界にどっぷりと浸れるようになっている。

ゲームでのロボットウォーズの舞台となるのは、世界中で開催されるトーナメントである。当初はロンドンのものにしか参加できないが、獲得賞金が増えるにつれて、日本を含める世界中のトーナメントに参加できるようになる。

対戦相手のロボットを破壊、もしくは行動不能にすることが勝利に結びつくという、日本のロボコンでほとんど見られないルールから、はじめは少し抵抗もあったが、始めてみるとすっかりはまってしまった。自分の組み立てたロボットが勝ち進むうれしさは、実際のロボコン参加者のそれに通じるところがあるかもしれない。

競技は格闘戦だけではない

「ロボットウォーズ アリーナズ・オブ・ディストラクション」では、各地で開催される競技は格闘戦に限らない。「鬼ごっこ」に似た「マッド・ボマー」や、1本の旗を全員で奪い合う「キャプチャー・ザ・フラッグ」、アリーナに配置されたドラム缶や木箱などのスクラップの破壊数を競う「コラテラル・ダメージ」などの競技もある。

トーナメントごとにロボットの重量や使用武器などの出場条件も設定される。それに合わせたロボットを使わなければならないから、同じ競技でも同じ戦術を取りにくいようになっている。開催国によってアリーナも異なり、それも戦い方の変更を余儀なくする一因となる。アリーナによってトラップやハウスロボットの絡み方も変わるので、戦いの中から勝ち方を考えていかなければならないのだ。

ロボットバトルというと、ともすると単調な戦いが続くように思われるが、「ロボットウォーズアリーナズ・オブ・ディストラクション」はそうではない。簡単な操作性であり、ストーリーも特にないのだが、新たなトーナメントが登場することによる工夫が強いられるので、飽きるところか、どんどんとはまってしまふ。

ロボット作りにはお金がかかるのだ

「ロボットウォーズ アリーナズ・オブ・ディストラクション」でのロボット作りは

ショップでボディや動力源、アーマーなどの部品を購入することから始まる。はじめのうちは、あらかじめ用意されているロボットを安価にカスタマイズするしかないが、新たなトーナメントへの参加資格を得れば、だんだんとそれだけではすまなくなる。手持ちの部品は何度でも付け替えられるが、出場条件やアリーナなどによっては、ロボットの仕様を大幅に見直さざるを得ないこともあり、新たなロボットの創造を避けられない。

それに必要な部品の購入資金は、トーナメントで優勝することでしか得られない。手持ちの部品を売り払うことでもある程度はまかなえるが、それでは高価な高性能部品は永遠に入手できない。トーナメントで勝つためのロボットの製作資金を、トーナメントで勝ち続けながら稼がなければならないのだ。

実際のロボコンでも、こうしたロボット製作資金面での苦労はよく耳にする。まさかそれをゲームの中で味わうことになるとは思わなかった。「ロボットウォーズアリーナズ・オブ・ディストラクション」では、新品部品を売る通常のショップのほか、安価な中古部品を扱う「スクラップヤード」もある。思わぬ掘り出し物が見つかることもあるその「スクラップヤード」に足繁く通う自分の姿を、実際のロボコン参加者にだぶらせてしまった。